Mémoire 2025

第172回 天皇賞(秋)(GI)



3年ぶりの3歳馬勝利　マスカレードボール

歴戦の古馬に、伸び盛りの3歳馬が挑む。2頭出走した3歳馬のマスカレードボールとミュージアムマイルが1、3番人気で迎えた秋の中距離王者決定戦は、究極の末脚が試される一戦となった。

レースを引っ張ったのは、宝塚記念を逃げ切ってGI初制覇を成し遂げた5番人気のメイショウタバルだった。前半600㍍の37秒1、800㍍の49秒6はともに記録が残る1986年以降、良馬場の天皇賞(秋)では最も遅いラップで、記録的な超スローペースの逃げとなった。

直線、突き放しにかかるメイショウタバルに、4月の香港でクイーンエリザベスⅡ世Cを制して以来のレースとなる2番人気のタスティエーラが好位から並びかけていく。馬体を併せて競り合う2頭。その背後から一気に迫ったのがマスカレードボールだった。

中団やや後方追走から馬場の真ん中を伸びたマスカレードボールは、2頭を捉えるとさらに加速。後方からは同じ3歳の皐月賞馬ミュージアムマイルやジャスティンパレスが追い上げるが、その3/4馬身前でゴールを駆け抜けた。レースの上がり3ハロン32秒9は86年以降(以下同)のGIで最速。マスカレードボール自身の32秒3(推定)も、前年の天皇賞(秋)でドウデュースが記録した32秒5(推定)を更新するGI勝ち馬の史上最速。まさに究極の末脚だった。

3歳馬の勝利は2022年イクイノックス以来3年ぶりで、ミュージアムマイルとの3歳馬ワンツーは1987年の3歳馬への天皇賞再開放後で初の快挙。C.ルメール騎手は「イクイノックスと同じフィーリングでした」と自身が跨った名馬を引き合いに出してパートナーを称えた。

春は皐月賞3着、ダービー2着とあと一歩でタイトルに届かなかったマスカレードボールだが、夏を経ての成長を、手塚貴久調教師は「少年から青年くらいにはなったかな」と表現。まだまだ無限の伸びしろを持つフレッシュな王者の誕生となった。

第172回天皇賞(秋)(GI)

11/2　東京競馬場　2,000㍍(芝・左)　曇・良　14頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	マスカレードボール	牡3	56	C.ルメール	手塚　貴久	1:58.6	①	9 6 8
2	ミュージアムマイル	牡3	56	C.デムーロ	高柳　大輔	3/4	③	9 9 9
3	ジャスティンパレス	牡6	58	団野　大成	杉山　晴紀	クビ	⑧	4 6 6
4	シランケド	牝5	56	横山　武史	牧浦　充徳	クビ	⑥	14 14 14
5	アーバンシック	牡4	58	A.プーシャン	武井　亮	クビ	⑪	12 11 11

マスカレードボール 栄光の蹄跡

7

ドゥラメンテ　118 L
マスカレードボール
マスクオフ(ディープインパクト)
2022.3.2 生　千歳・社台ファーム





牡3 黒鹿
56

C.ルメール
1979.5.20生　B型
㈲社台レースホース
手塚　貴久(美浦)

2025.6.1　東京	2025.4.20　中山	2025.2.16　東京
日本ダービーGⅠ	皐月賞GⅠ	共同通信杯GⅢ
18ト 3人 **2**(118)	18ト 4人 **3**(115)	9ト 1人 **1**(113)
57㌔　坂井 瑠星	57㌔　横山 武史	57㌔　坂井 瑠星
芝2400良　2:23.8	芝2000良　1:57.3	芝1800良　1:46.0

※昨年のカラー版出馬表より抜粋